

令和7年(2025年)

9

No.827

The Religion News

宗教新聞

https://www.religion-news.net

発行所 宗教新聞社

〒160-0022 東京都新宿区新宿5-13-2

電話 03-3353-2940(代)

FAX 03-5363-5182

郵便振替口座 00130-9-22704

©宗教新聞社 2025

購読料  
(税込)

1部  
半年  
年間

500円  
3,000円(千共)  
6,000円(千共)

# 終戦80年の夏 平和への思い新たに



黙祷を捧げられる天皇皇后両陛下=8月15日、東京都千代田区の日本武道館

## 天皇皇后両陛下 英霊に哀悼の祈り

終戦から80年の節目の今年、8月15日に全国戦没者追悼式が東京都千代田区の日本武道館で開催された。天皇皇后両陛下の御臨席の下、石破茂内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁判所長官、各務大臣、各都道府県代表、関係団体の代表、戦没者遺族ら約4500人が参列し、約310万人を数える戦没者に追悼の誠を捧げた。

### 全国戦没者追悼式

午前11時51分、開会が宣言され、全員が起立して両陛下を迎えた。国歌斉唱に続き、石破総理が式辞を述べた。「すべての御霊の御前(おんまえ)にあつて、御霊安かれと、心より、お祈り申し上げる。今日の我が国の平和と繁栄は、戦没者の皆様の上に築かれたものであることを、私たちは片時たりとも忘れない」とし、「あの戦争の反省と教訓を、今改めて深く胸に刻まねばならない。この80年間、我が国は一貫して、平和国家として歩み、世界の平和と繁栄に力を尽くしてきた。悲痛な戦争の記憶と不戦に対する決然たる誓いを世代を超えて継承し、恒久平和への行動を貫いていく。今を生きる世代とこれからの世代のために、より良い未来を切り拓く」と強調した。

両陛下が標柱の前に進み深く一礼された。正午の時報に合わせ一分間の黙祷を捧げられ、両陛下に合わせ、参列者が同様に黙祷を捧げた。続いて、天皇陛下がおことばを述べられた。「本日、『戦没者を追悼し平和を祈念する日』に当たり、全国戦没者追悼式に臨み、さきの大戦においてかけがえのない命を失った数多くの人々とその遺族を思い、深い悲しみを新たにいたします。終戦以来80年、人々のたゆまない努力により、今日の我が国の平和と繁栄が築き上げられました。多くの苦難に満ちた国民の歩みを思うとき、誠に感慨深いものがあります。戦中・戦後の苦難を今後とも語り継ぎ、私たち皆で心を合わせ、将来にわたって平和と人々の幸せを希求し続けていくことを心から願います。ここに、戦後の長きにわたる平和な歳月に思いを致しつつ、過去を顧み、深い反省の上に立って、再び戦争の惨禍が繰り返されぬことを切に願い、戦陣に散り戦禍に倒れた人々に対し、全国民と共に、心から追悼の意を表し、世界の平和と我が国の一層の発展を祈ります」

「我が国は国民の懸命な努力によって、世界有数の民主主義国家となり、平和と自由を享受しているが、国を思い、最愛の家族の幸せを願ひ、故郷の友や山河を懐かしみながら、散華された多くの戦没者がいることを、私達は決して忘れることはない。私の父は、母が23歳私が2歳、妹はまだ母のお腹の中にいる時、31歳で亡くなった。朝鮮で終戦を迎えたが、帰国の為に乗った引き揚げ船が、途中朝鮮海域において、機雷に接触、沈没したとのことだ。生きて終戦を迎え、母と共に将来の夢や希望を抱いていた父の無念さは計り知れない。家族の大黒柱を失いながらも、祖父母と母は懸命に家業の農業を続け、その苦勞を子供たちに感じさせるようなことは全くなかったが、思い返せば相当な苦勞もあつたであらうことは想像に難くない。世界は今なお侵略や民族紛争、宗教間の対立などで、多くの人々が犠牲となっているが、我が国は、今こそ平和の尊さを世界へ訴えることが求められている」

この後、石破首相や衆参両院議長、遺族代表、各団体代表者らが戦没者に黄色菊を捧げ、式典は終了した。

この夏も、多くの地域で大雨などの自然災害が起きた。そして被害を受けた地域にボランティアが駆けつけることも今や普通の光景となった。県外からでも駆けつける人たちの行動には頭が下がる▼ボランティア、言い換えれば「利他」の行為は宗教において最も重要な実践の一つだ。ただ、宗教関係のグループのボランティアに対して「信者の勧誘のため」といった揶揄を目にしたことがある。宗教に対する警戒心、あるいは無理解がそのような思いを抱かせるのだろうが、残念である▼数年前に興味深い研究の報告を読んだことがある(『利他』とは何か『集英社新書』。東京工業大学の共同研究で、哲学や宗教、文化などの視点から利他を論じている。「これをしてあげたら相手の利になる」といった自分の思いが含まれていると押し付けになったり、見返りを求めるものになりやすい▼一方で、人間の意思を超えたものに促されるときに利他が生まれるとも書いている。人知を超えたところに利他が宿る。宗教と深く関係しているということだ。